

第 1 期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

筑波大学

平成 2 3 年 5 月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「教養教育では、主として自主的学習能力、コミュニケーション能力、豊かな心や健やかな身体を自ら育む能力及び国際的な活躍に必要な能力を涵養し、専門基礎教育及び専門教育では、主として専門分野に関する確かな学力を育成。これらを総合した教育目標とその達成方法を表示する枠組みを「筑波スタンダード」として設定」について、学士課程教育の再構築に向けた全学的な検討により、全学及び各学類・学群ごとの教育の目標とその達成方法及び教育内容の改善を図るために、学士課程教育の目標とその達成方法を体系化した一つのモデルとして「筑波スタンダード」を設定・公表し、それに基づいて教育改革を実施していることは、学士課程教育の質の向上を着実に推進している点で、優れていると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、4 項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

- 中期目標で「広い視野と豊かな人間性を養う教養教育的な科目と、専門分野の確かな学力を養う専門教育的な科目を有機的に連携させたカリキュラムを編成」としていることについて、学群・学類間の壁が低く自由度の高い教育システムが構築されていることは、学生の知的好奇心を広げ、主体的な学習を促している点で、特色ある取組であると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画で「筑波研究学園都市を中心に各種研究機関との連携による専攻を整備し、順次その拡大を図る」としていることについて、筑波研究学園都市等にある多数の研究機関と連携を図り、研究機関の研究者を兼任教員として迎える連携大学院方式を実施する研究科を設置し、体制の充実が図られていることは、多くの学生が最新の研究設備と機能を有する研究機関において、研究者から研究指導を受けられる機会を提供している点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「コンピュータリテラシー教育推進のため、学内 LAN 及び端末室等情報教育基盤設備の整備充実を図る」について、学生が授業時間以外に自由に利用できる多数のパソコンを備えたサテライト教室を 26 か所設置していることは、積極的に情報

端末基盤設備の充実を図っている点で、特色ある取組であると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

- 中期計画「留学生に対する宿舍の確保等の各種支援、日本語教育、相談指導、地域社会との交流、短期交換留学等の充実とその支援のための学内共同教育研究施設の設置」について、新規渡日留学生への宿舍（800 名用）の確保等の支援や地域社会との交流活動等に積極的に取り組み、平成 19 年度現在、留学生受入数が 1,221 名（学生総数の約 8 %）に達していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「福利厚生施設並びに学生宿舍の整備・充実」について、学生宿舍の老朽化への対応、学生の要望に応じた LAN ポートの設置、出入口へのオートロック式の電気錠の設置や静脈認証システムの導入によるセキュリティ対策等の学生宿舍の整備が行われていることは、学生の福利厚生の向上が図られている点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期目標で「学生生活支援体制を強化」としていることについて、学生への支援の取組として、学生生活支援室、キャリア支援室の教員組織、学生部の事務組織で構成する「スチューデントプラザ」が設置され、学生支援組織の有機的な連携が図られていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「心身に障害を持つ学生のための学習環境の改善」について、学生を学習補助者として配置し、障害学生支援のための養成講座を実施するなど、専門性を踏まえた支援が出来る体制を確立していることは、積極的に心身に障害のある学生のための学習環境の改善に努めている点で、特色ある取組であると判断される。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「教育・文化立国」、「科学技術創造立国」を目指す我が国の諸施策を踏まえつつ、新しい学問領域を拓く研究及び社会・経済・文化の発展に貢献できる研究を推進について、人と機械と情報系を機能的・有機的・社会的に融合する技術の確立を目指した先鋭な研究の推進において、サイボーグ型ロボット（HAL）の開発を基点に、グローバルCOEプログラム「サイバニクス：人・機械・情報の融合複合」の支援を受け、サイバニクスの研究領域を拡大させ、先進的な成果を上げている。また、計算科学の推進において、計算機科学と科学諸分野の融合により、超並列クラスタ計算機（PACS-CS）や融合型並列計算機（FIRST）等の最先端クラスの計算機を開発・制作し、物理学や物質科学分野において先進的な成果を上げていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「新しい法則・原理の発見、独創的な理論の構築、学術文化の発展的伝承につながる質の高い基礎研究を一層推進。また、新たな研究領域を創出」について、宇宙史研究の領域において、日米欧の3拠点による教育研究体制の整備を進めるほか、学際物質科学領域で大学間連携による研究が進展し、着実に成果を上げていることは、

優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「学内学術情報基盤の整備を図る。また、研究成果の内外への発信体制を整備し、教員情報システム、学術論文データベース等研究情報の受発信の促進を図る」について、国際情報学研究所の委託事業として学術コンテンツ基盤の共同構築が進められ、「つくばリポジトリ」が世界のリポジトリランキングで高く評価されていることは、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。
平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画で「知的財産の適切な管理・活用を推進。中期目標期間中に累計 300 件程度の発明届出を目指す」としていることについて、知的財産統括本部と技術移転機関とが連携し、平成 16 年度から平成 19 年度までに、545 件の発明届の審査・評価を行い、340 件を法人帰属の特許として権利を継承したことは、発明数を大幅に増大させている点で、優れていると判断される。

（Ⅲ）その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「良好」であることから判断した。

（参考）

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「知財統括本部の設置により、リエゾン機能を強化」について、知的財産統括本部を設置し、知的財産の維持・活用、共同研究・受託研究の促進、創業・ベンチャー支援等の業務を一貫的・総合的に推進することにより、全国トップクラスの数の大学発ベンチャーを創出していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「筑波研究学園都市における中核的な大学として、地域の各種研究機関との連携を図る。また、広域的に諸大学等との各種連携体制及び支援体制の整備拡充を図る」について、産業技術総合研究所、国立環境研究所、物質・材料研究機構、農業・食品産業技術総合研究機構、茨城県及びつくば市と協力し、「つくば3 E フォーラム」を立ち上げ、地域の研究機関等との連携を図っている。また、電気通信大学及び東京理科大学との連携による「高度 IT 人材育成のための実践的ソフトウェア開発専修プログラム」が先導的 IT スペシャリスト育成プログラムに、宮城教育大学、茨城大学、千葉大学、東京学芸大学、大阪教育大学及び玉川大学との連携による「広域大学間連携による高度な教員研修の構築ー「教育の今日的課題」解決に向けた新研修システムの実現ー」が大学・大学院における教員養成推進プログラムに採択されるなど、広域的に諸大学等との間で連携を図っていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「独立行政法人国際協力機構、世界銀行等の国際関係機関を通じた教育研究協力及び研究開発の推進」について、国際協力機構（JICA）との連携融合事業として開発途上国に対する国際教育協力の実施、世界銀行、アフリカ開発銀行及び米州開発銀行からの奨学寄付金による「世界銀行等大学院奨学金プログラム」の実施、ユネスコ等との連携によるアジア地域の農業教育及び農業研究の国際協力を推進するなど、多面的な連携事業を実施していることは、特色ある取組であると判断される。

- 中期計画「本学が教育研究の対象としている地域に関する農業、情報、文化等幅広い分野にまたがる教育研究とそれを通じた各種協力の推進を図る」について、筑波大学内に北アフリカ研究センター、チュニジア共和国に北アフリカ・地中海連携センター、ウズベキスタン共和国に中央アジア国際連携センターを設置するなど、筑波大学が教育研究の対象としている地域について幅広い分野で教育研究協力を実施する体制を整備していることは、特色ある取組であると判断される。